

第二回 新しいまちづくりのグランドデザイン策定に向けた有識者懇話会における 各委員の主な意見

○大阪都市圏の特徴・めざすべき都市像

- ・環境先進都市である堺市も意識しつつ、カーボンニュートラルや環境の概念を強調してもよいのではないか。
- ・具体戦略の前段の、方向性やめざす目標が手薄な印象がある。ウォークブルや生活スタイルの多様性等がキーワードではないか。
- ・求める機能として、国際金融を強調するのではなく、健康・医療産業を新しい産業として強調してもよいのではないか。医療産業は彩都を含めて郊外に広がりを見せている機能であり、「マルチハブ&ネットワーク型都市構造」にマッチしている。
- ・「次世代型に更新」という概念をきちんと説明することが必要。歴史的な資産も活用しつつ、たとえばウォークブルやデジタル化などの新たな要素を実装することにより、次世代型に更新していくということ。
- ・デジタル化の考え方を示す場合、どのような要素がインフラに導入されていくのかをイメージさせる表現がよい。
- ・まちそのものをストックと考えれば、エリア全体をリノベーションすることになるということ。「まち全体を次世代型に更新」というコンセプトでよい。
- ・物理的な更新の話と、それをどう使うかというところは切り分けた方がよい。その中で使い方のキーワードとして「持続可能性」や可能性に対応できる「レジリエンス」などがあるのではないか。
- ・これまで築き上げたストックを最大限活かしつつ、全てを丸々リニューアルするのではなく、その可能性を最大限生かすために必要なものをここまでやるということをキャッチーに表現できるとよい。
- ・物流機能の再配置が進められている。港湾・空港に近い物流拠点と内陸型の物流拠点の考え方について、何らかの戦略が必要。
- ・東大阪などの既存の流通業務市街地などの拠点をどう変えていくかについて考え方を示すことも必要。
- ・物流に関しては、現状は広域での計画性はない。新名神や第二京阪などの高速道路沿いに、新たな物流施設が張り付いていっているという状況。
- ・京都市や台北のような複合機能型の卸売市場建替えや、物流拠点と他の機能（住宅・公園・商業等）が融合した開発がみられる。また、工場跡地を転用して環境配慮型の土地利用に転

換することも物流戦略に必要な考え方ではないか。

- ・めざすべき都市像について、多様な魅力とは具体的に何かを説明した方がよい。多様な都市機能を備えた拠点形成なのか、それぞれの拠点を個性的なエリアとするのか、考え方をわかりやすく記載した方がよい。
- ・「魅力ある生活圏」について、何を魅力があるかと考えるのか意識して書くべき（施設の多様性よりも生活スタイルの多様性）。

○戦略1) 拠点の形成 ～大都市・大阪に相応しい拠点の形成～

- ・国際拠点や中核拠点は、人・モノ・情報が交流する都市機能の拠点であり、国際拠点はある程度フルセットの都市機能を、中核拠点はフルセットでなくてもある程度の都市機能を持った拠点と理解。
- ・個別の拠点の機能・役割には言及できないが、国際拠点、中核拠点、産業拠点の区分けで拠点を形成するということは理解できる。
- ・拠点の設定にあたっては、各エリアの中核となるイメージが持てるような、たとえば3、4つの事業を束ねるようなゾーニングを想定、拠点との階層性がわかるような書きぶりを考えたい。

○戦略2) 新しい郊外の創造 ～大阪ならではの魅力ある郊外の創造～

- ・大阪全体でどこもかしこも同じことをするのではなく、人口が減少しているところなどは自然を保全していった、全体としての魅力づくりをしていくという方向に進んでいけばよい。結果として税金に困るのであれば、広域自治体として府が何らかの支援をすべき。
- ・公園や緑道など計画的に整備してきた緑と、豊かな自然環境は分けて書くことを意識すべき。
- ・キャッチフレーズに共感。そのうえで、駅周辺エリアと郊外居住地を結ぶような緑道や歩道を充実するなど、歩ける生活圏域を形成するということをもう少し書いてほしい。

○戦略3) 広域連携 ～海・川・山の地形的特徴や歴史・文化等の多様な地域資源を活かす～

- ・タイトルにある「広域連携」の考え方は全体の戦略に通ずるものであるため、副題のような地域資源を活かす等とすべき。
- ・「多様な地域資源を活かす」は拠点形成でも郊外創造でも必要な考え方。入れ方を工夫すべき。

○戦略4) 人・モノ・情報の交流を促進

- ・ウォークブルの視点から、車から人へ都市空間の使い方を変えていくことに言及すべきではないか。

○戦略5) 安全・安心でグリーンな社会を実現

- ・「災害に強いまちづくり」はもう少し前段のところにもっていくべきではないか。兵庫県では筆頭に来ている。兵庫では阪神淡路や但馬地震の節目にある。大阪でも大きな災害の節目にあるかもしれないので書きぶりを検討すべき。

○その他

- ・国際拠点と中核拠点のもう一つ下の階層として拠点を位置づけるのであれば、生活の拠点を示した方が理解できる。
- ・人口維持は実質不可能だと考える。多様性をどれくらい確保できるか、リスクをどれだけ許容できるか、あるいは QOL などの観点がよい。
- ・住民が幸福になれる、豊かに暮らすことができるということをめざすべき。
- ・人口が減少しているところは自然を保全、駅周辺には都市機能を集積するなど、メリハリをつけることが重要。
- ・人口密度の減少に比例して、都市機能が減少するのではなく、密度にゆとりがあり、かつ暮らしやすい都市機能が担保されていることが重要。

以上